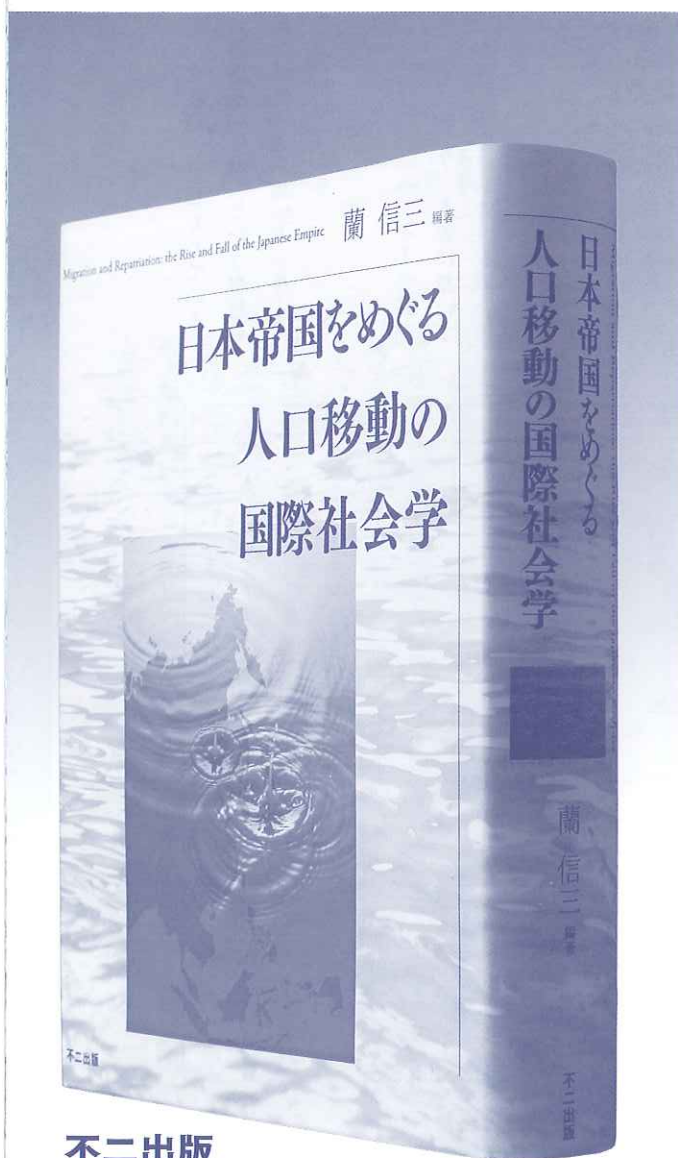


日本帝国をめぐる 人口移動の 国際社会学

編著者 蘭 信三 (上智大学外国語学部教授)
体 裁 A5判・上製・898頁
刊 行 2008年6月
定 価 本体価格8,000円+税
ISBN978-4-8350-5586-2 C3021



〈日本帝国〉の形成と崩壊は、
東アジアの人々の生活世界を
いかに変容させ、
彼らはそれをどう生き抜いたか。

本書は、朝鮮、満洲、樺太、台湾、南洋を舞台として、複雑に
展開された《人口移動》の諸相を、植民地という地政学的な支配の
構造が様々な要因やベクトルと互いにとどのように連関しているのか、
国際社会学的視角から総体として捉えようとしたものである。

不二出版

朝鮮 から内地、内地から朝鮮、朝鮮から満洲への人口移動を対象としている。なかでも、二〇年代の朝鮮から内地への人口移動を「密航」という形態から明らかにし、戦後政治的混乱によって起こった済州島からの「密入国」と、そしてそれに対する大阪での取り締まり政策を検討している点で特徴的である。

満洲 をめぐる人口移動は、一九世紀以来の漢族、朝鮮族の流入、そして満洲国以降の内地からの急激な流入という大きな傾向があり、本書においても内地から満洲、朝鮮から満洲、中国華北から満洲への流れを対象としている。

樺太 をめぐる人口移動は、内地から樺太への流入、樺太から内地への（引揚げ）を主としながら、ロシアを経て渡ってくる朝鮮人の人口移動も対象としている。また、明治末期の「回帰的な出稼ぎ」の研究は、これまで主流であった永住型の移民研究に一石を投じている。

台湾 の近現代史は島外からの入移民の歴史であり、現在住民の大部分が一九世紀以降に中国大陸より移り住んだ漢族の子孫である。本書では、内地から台湾への流れを主としながら、沖縄と台湾間の双方向の人口移動とその生活、台湾での抗日運動、そして台湾から満洲への人口移動も対象とし、聞き取り調査や同時代的言説などをもとに考察している。

南洋 をめぐる移動は、内地や台湾から、一九一九年に委任統治領となった南洋群島への移住が本格化する一方で、東南アジアへの移住もまた別の流れとしてある。本書においては、沖縄から南洋群島への移住と内地からフィリピンやインドシナへの移住を主な対象とし、在留邦人社会のさまざまな動向を地域ごとに論じている。

本書を推薦します

日本帝国をめぐる「人流」を
総体として捉える

山本有造（中部大学教授）

歴史社会学の分野を中心に次々と成果を挙げておられる蘭信三教授を編者として、大著『日本帝国をめぐる人口移動の国際社会学』が不二出版から出版されるという。

日本帝国をめぐるモノとカネの循環については、経済史を中心にすでに分厚い研究蓄積を持っている。ヒトの循環という古くて新しい問題についても、移民史や経済史や社会学の分野で近年研究が進んできたが、なお知るべくして知られざることが多い。

本書の特徴は、社会学という方法を基軸にすえ、朝鮮・満洲・樺太・台湾・南洋という日本帝国のほぼ全域を対象として、ヒトの「往き」と「還り」、あるいは「移民」と「引揚げ」（そして「残留」）を包括的に捉えようとしたことにある。この場合の「往き」と「還り」には、「日本からの」だけではなく「日本への」、さらには「外地と外地の間の」を含むことも注目しなければならない。

蘭教授による序論と各部の総説をいれて論文が二五本、研究ノート・研究紹介・フィールドノートが一一本という実に壮大な構成になっている。帝国をめぐる人流のエンサイクロペディアというのはやや言い過ぎかもしれないが、これだけ内容豊富な大著を読めることを楽しみにしている。

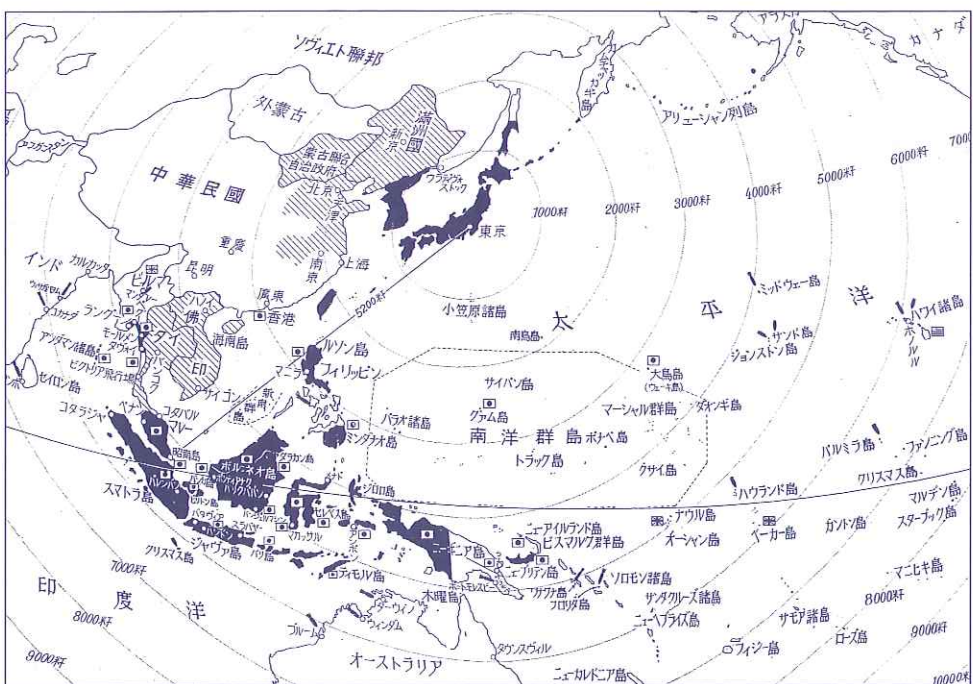
若手研究者中心の
日本帝国をめぐる移民研究の
画期的成果

木村健二（下関市立大学教授・日本移民学会会長）

日本の勢力圏への移民の象徴的存在であった満洲農業移民に関する研究は、経済史を中心とする研究グループによって『日本帝国主義下の満洲移民』（龍溪書舎）として一九七六年に上梓された。ついでもっぱら歴史学の分野に属する人々により、日本帝国全般における移民を「膨張する帝国の人流」として体系的にとらえた研究が、一九九三年に岩波講座『近代日本と植民地』第五巻として上梓された。

そして今回、二〇〇五年三月に二日間にわたって開催された日本移民学会ワークショップの成果が、蘭信三氏ほか若手の研究者によって『日本帝国をめぐる人口移動の国際社会学』として刊行されることとなった。それは、地域性、移動の諸形態、移動現象が投影した諸相等においてきわめて網羅的であること、また分析の視角が、近年の在米日系人研究などでのアイデンティティやエスニシティに関する研究成果をふんだんに取り入れることなどを特徴としている。実に日本帝国をめぐる移民現象に内在する豊富な研究対象に切り込んだ、画期的成果といえるべきものである。

本書の刊行を契機として、日本の勢力圏移民研究の深化とともに、近代アジアにおける人口移動現象との関係性あるいは比較研究、非勢力圏移民研究との比較研究、さらには現代世界における移民現象との比較研究がますます深まるものと確信するものである。



本書所収の図を76%縮小

序 日本帝国をめぐる人口移動の国際社会学をめざして 蘭信三

第1部 朝鮮

総説 外村大

第1章 日本帝国の渡航管理と朝鮮人の密航 外村大

第2章 朝鮮における日本人農業移住の空間展開 轟博志

第3章 解放直後・済州島の人びとの移動と生活史 伊地知紀子・村上尚子

第4章 アメリカ占領下における朝鮮人「不法入国者」の認定と植民地主義 福本拓

研究ノート 朝鮮人の満洲移住 田中隆一

研究紹介 在阪朝鮮人の生活と帝国主義 李洪章

研究紹介 帝国黎明期の在朝日本人 木下昭

第2部 満洲

総説 上田貴子

第5章 満洲農業移民における地主化とその論理 今井良一

第6章 満洲における「開発」と農業移民 小都晶子

第7章 満洲体験を語り直す 猪股祐介

第8章 東北アジアにおける中国人移民の変遷 一八六〇―一九四五 上田貴子

研究ノート 満洲における朝鮮人の社会と教育 金美花

研究ノート 中国朝鮮族のアイデンティティ・クライシス 崔佑吉

研究紹介 日本人商工業者の帝国依存性 木下昭

第3部 樺太

総説 三木理史

第9章 明治末期岩手県からの樺太出稼 三木理史

第10章 戦前期樺太における商工業者の実像 竹野学

第11章 樺太アイヌの〈引揚げ〉 田村将人

研究紹介 極東ロシアにおける東アジア系移民 松本郁子

第4部 台湾

総説 松田ヒロ子

第12章 沖縄県八重山地方から植民地下台湾への人の移動 松田ヒロ子

第13章 生活史から見る沖縄・台湾間の双方向的移動 野入直美

第14章 明治期の「在台内地人」初等教育について 高嶋朋子

第15章 台湾抗日運動における東京台湾留学生の役割と女性の位置 中西美貴

研究紹介 重層的被支配の狭間の経験 坂部晶子

第5部 南洋

総説 大野俊

第16章 南洋群島に渡った沖縄県出身男性世帯主の移動形態 宮内久光

第17章 「ダバオ国」の日本帝国編入と邦人移民社会の変容 大野俊

第18章 一九二五―四〇年のマニラ湾における日本人漁業 武田尚子

第19章 仏領インドシナにおける日本人社会 湯山英子

フィールドノート 「FEUNOS PERES (私達の亡き父)」 津田睦美

研究紹介 英領マラヤの日本人たち 木下昭

研究紹介 南洋引揚者の再移住と沖縄独立論 木下昭

あとがき 蘭信三

編著者・執筆者紹介 (執筆順)

編著者

蘭 信三 (上智大学教授)

執筆者

外村 大 (東京大学准教授)

轟 博志 (立命館アジア太平洋大学准教授)

伊地知紀子 (愛媛大学准教授)

村上尚子 (津田塾大学博士課程)

福本 拓 (大阪市立大学COE特別研究員)

田中隆一 (学習院大学客員研究員)

李 洪章 (京都大学博士課程)

木下 昭 (立命館大学非常勤講師)

上田貴子 (近畿大学講師)

今井良一 (京都大学研修員)

小都晶子 (大阪大学非常勤講師)

猪股祐介 (京都大学非常勤講師)

金 美花 (明治大学非常勤講師)

崔 佑吉 (韓国鮮文大校教授)

三木理史 (奈良大学准教授)

竹野 学 (札幌医科大学非常勤講師)

田村将人 (北海道開拓記念館学芸員)

松本郁子 (日本学術振興会特別研究員)

松田ヒロ子 (シンガポール国立大学特別研究員)

野入直美 (琉球大学准教授)

高嶋朋子 (同志社女子大学非常勤講師)

中西美貴 (京都大学博士課程)

坂部晶子 (島根県立大学助教)

大野 俊 (九州大学教授)

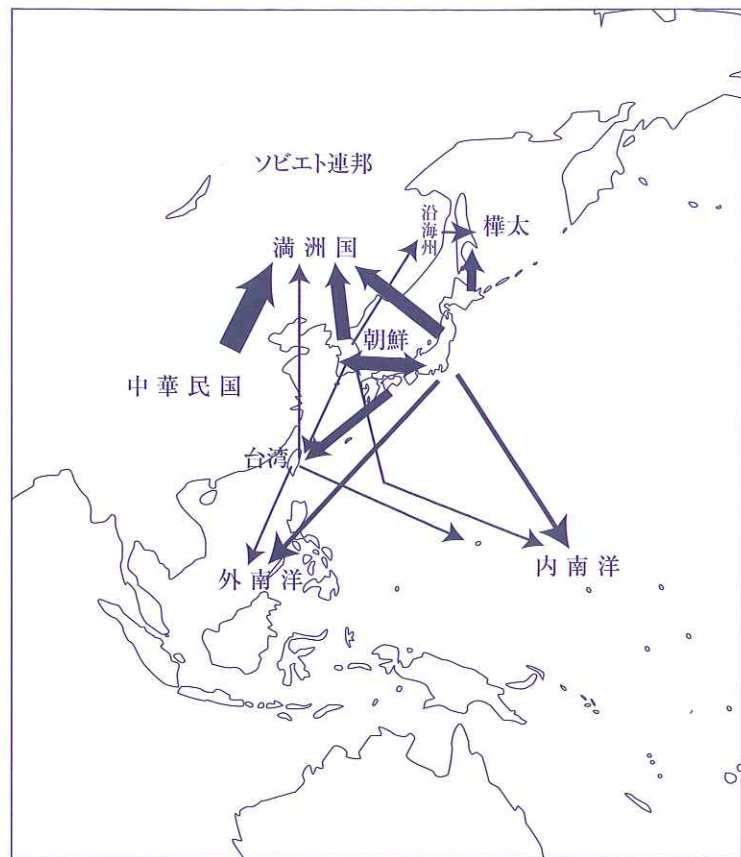
宮内久光 (琉球大学教授)

武田尚子 (武蔵大学教授)

湯山英子 (東海大学札幌校舎非常勤講師)

津田睦美 (成安造形大学准教授)

日本帝国の形成と人口移動の主動向 (本書所収の図を86%縮小)



関連図書 * 内容案内送呈

やすおか 満洲泰阜分村 70年の歴史と記憶

〈満洲泰阜分村 70年の歴史と記憶〉編集委員会 編

長野県泰阜村 発行

本書は開拓団員20数名に上る生の声、研究者の学術論考、移民・引揚・帰国支援関連の村役場資料、丹念に作成された年表と名簿、さらに『満洲泰阜分村——後世に伝う血涙の記録』を一部再録した労作。

A5判・上製・1,040頁 定価(本体8,000円+税)

日本帝国主義下の植民地労働史

松村高夫 著/解説=杉原 達

本書は、1966年から2006年にわたって発表された、日本帝国主義と植民地労働史に関する6編の論文を集成したものである。今後の東アジア各国との関係を捉えなおす上でも貴重な研究書。

A5判・上製・348頁 定価(本体5,800円+税)

外交史料 韓国併合 全2巻

海野福寿 編・解説

本史料集は、「韓国併合」に関して「歴史の共通認識という国際共通財を創り出す出発点」として編まれたものである。日本の韓国植民地化過程(1904-10)に締結された日韓旧条約の日本側の政府関係史料を中心に400点余を取録。日韓外交関係の基本史料である。

A5判・上製・総806頁 揃定価(本体48,000円+税)

初期コミンテルンと東アジア

初期コミンテルンと東アジア研究会 編

東アジアの社会主義運動とコミンテルンの関係は如何にして始まったのか。モスクワ・アルヒーフを駆使した7編の論文により、日本、朝鮮、中国、モンゴルとコミンテルンとの接点が初めて明かされる。

A5判・上製・312頁 定価(本体4,286円+税)

国策会社・東拓の研究

河合和男・金 早雪・羽鳥敬彦・松永 達 共著

本書は、1908年、朝鮮に設立された東拓(東洋拓殖株式会社)の多面的な事業活動を総体的に把握し、それを通じて、国策会社・東拓の全体像や歴史的意義に迫ろうとした共同研究書である。

A5判・上製・328頁 定価(本体7,800円+税)

中国残留日本人孤児に関する調査と研究 全2巻

関 亜新・張 志 坤 著〔原題『日本遺孤調査研究』〕

浅野慎一 監訳

本書は残留孤児に関する中国側の初の本格的な調査研究書である。公安機関の全面協力の下、未公開の膨大な個人档案記録を分析。同時に多くの中国在住の残留孤児と養父母にインタビュー調査を実施。従来、看過されがかった中国での残留孤児の生活と意識を検証する。

A5判・上製・1,000頁 揃定価(本体30,000円+税)

ご注文書

FAX 03-3812-4464

日本帝国をめぐる人口移動の国際社会学

定 価(本体8,000円+税)
ISBN978-4-8350-5586-2

冊

満洲泰阜分村——七〇年の歴史と記憶

定 価(本体8,000円+税)
ISBN978-4-8350-5559-6

冊

日本帝国主義下の植民地労働史

定 価(本体5,800円+税)
ISBN978-4-8350-5756-9

冊

外交史料 韓国併合 全2巻

揃定価(本体48,000円+税)
ISBN4-8350-4561-0

冊

初期コミンテルンと東アジア

定 価(本体4,286円+税)
ISBN978-4-8350-5755-2

冊

国策会社・東拓の研究

定 価(本体7,800円+税)
ISBN4-938303-97-3

冊

中国残留日本人孤児に関する調査と研究 全2巻

揃定価(本体30,000円+税)
ISBN978-4-8350-6178-8

冊

不二出版

*表示価格はすべて税別

- ▶ 〒113-0023
- ▶ 東京都文京区向丘 1-2-12
- ▶ TEL 03-3812-4433
- ▶ FAX 03-3812-4464
- ▶ 振替 00160-2-94084